

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
「夢」「愛」「学び」を拓く広戸っ子の育成 ー元気・やる気・本気・根気ー みんなが輝く広戸っ子 めざす子ども像 ○にこにこ挨拶 思いやりのある子ども ○こつこつ学習 進んで学ぶ子ども ○いきいき生活 たくまい子ども ○わくわく体験 よく働く子ども	(1)心の教育の充実と人間理解の深化 (2)基礎基本の習熟と学ぶ力の育成 (3)健康づくりと安全教育の推進 (4)ふるさと体験と実践力の育成

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国(小学校)</p> <p>○国語A・B、算数A・Bともに、県平均と比べると正答率が高い。(算数Bは4ポイント、国語Bは9ポイント高く、特に活用力がついている。)</p> <p>○国語A、算数Aともに無解答率が0%である。</p> <p>○国語の「話すこと・聞くこと」領域は理解できているが、漢字の同音異義語の書き、手紙の書き方に課題がある。</p> <p>・話の構成や内容を工夫し適切な言葉遣いで考えを話す : 本校83%(全国48%)</p> <p>・平均の求め方の記述 : 本校66.7%(全国26%)</p> <p>県(小学校【3年～5年】)</p> <p>○国語、算数ともに県平均を下回っている。</p> <p>○国語の活用では、県平均を上回っている。(3・5年)</p> <p>○算数の活用では、県平均を下回っている。(4・5年)</p> <p>○どの学年も文章を書くことに課題がある。</p> <p>・登場人物の様子を読み取る : 本校91%(全国70%)</p> <p>・指定された長さで文章を書く : 本校約45%(全国約72%)</p> <p>・加法の結合法則 : 本校77%(全国57%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>全国(小学校)</p> <p>○平日にテレビ等を2時間以上視聴する児童の割合は県平均より低い。</p> <p>○平日にゲームを1時間以上する児童の割合は県平均より高い。</p> <p>○家庭学習をしているが、予習復習を意識している児童は少ない。</p> <p>○読書が好きな児童の割合は県平均より高いが、家庭での読書時間は少ない。</p> <p>○「考えを説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と感じている児童の割合は、県平均より高い。</p> <p>○「自分には、よいところがある」の割合が県平均より低い。</p> <p>・友だちに会うのは楽しい : 本校100%(全国83%)</p> <p>・家の人が、学校行事に来る : 本校100%(全国81%)</p> <p>県(小学校5年)</p> <p>○あいさつがすすんでできている児童は、県平均より低い。</p>
--	---

成果

○朝学習などの取り組みにより、算数の基礎基本の力が少しずつ付いてきた。

○週2回の放課後学習で活用問題に取り組み、無回答率が減った。

○図形の作図に抵抗があったが、簡単な図形がかける児童が増えてきた。

○校内で漢字指導やノート指導の仕方を統一したことにより、漢字や基礎基本の力が少しずつ付いてきた。

○家庭学習を掲示したりノートの評価の仕方を交流したりすることにより、児童の学習への意欲も上がってきた。

○校内でテストの結果を分析し、課題を共通理解することで、苦手なところに取り組むことができた。

課題

○国語・算数ともに、活用問題ができる学年もあるが、苦手としている学年もある。

○字数を指定されたり、段落を指定されたり、条件付きで文章を書くことを苦手としている。

○友だちと話し合ったり意見をまとめたりすることを苦手としている。(経験が少ない)

○6年生に向けて、下学年での学力の定着が今一步である。

○家庭学習(特に自主学習)の質に改善の余地がある。

○全学年、テレビやゲームなどの時間が少しずつ増え、生活習慣の乱れが見られる。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○字数制限や、段落指定などの条件を理解し、それに合った文章を書く。	○2学期に到達度テストなどを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○求められている条件を理解し、それに合った文章を書く。	○放課後学習などで活用問題に取り組みながら、書くことへの抵抗を減らしていく。 ○授業でも書く活動を積極的に取り入れる。 ○書いたことをほめたり、正解例を示す。	○書くことという意欲を持ち始めてはいるが、書き方の条件などがあると、まだまだ抵抗がある。	B	○条件を読み、それに合わせて書くことに、抵抗は少なくなってきたが、個人差がある。	B	○引き続き字数制限などがある活用問題に取り組み、書き方を学べるようにする。また、書けたことをほめていくようにする。
○問題文や選択肢を正確に読み取る力をつける。	○2学期に到達度テストなどを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○問題文や選択肢をしっかりと読み取る力をつけ、算数の問題など実生活でも活用できるようにする。	○家庭学習で問題データベースを活用し、繰り返し定着を図る。 ○個人の課題に合わせたプリントに取り組ませる。	○問題文に自力で取り組んでいるが、資料などから必要な部分を読み取ることは、まだ課題が残る。	B	○初めての長文や活用問題など、複雑になると内容を理解するのに時間がかかる。	B	○放課後学習などで、資料を読み取るなどの教科書以外の問題にも取り組む。
○友だちと話し合ったり、意見をまとめたりする。	○2学期に到達度テストなどを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○積極的に友だちと話し合ったり意見をまとめたりできるようにする。	○授業中などで、意識して話し合う活動を入れていき、経験を増やしていく。 ○話し合いの進め方のマニュアルなど、具体的な手立てを作成し取り組んでいく。	○具体的な話し合いの仕方を学び、それを生かそうという意欲は見られるが、話し合いの経験はまだ少ない。	C	○話し合いに参加しようとする様子が見られるようになったが、考えを深めたり、練り上げるまではまだ不十分。	B	○話し合いの進め方のマニュアルなどの手立てを示す。(全体で系統性のあるものを作成する。)

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取り組み

○家庭学習の手引きの共通化

○「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックと同期間に取り組む)

○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる)

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣化を呼びかける。

○自主学習への取り組みを通して、予習と復習を意識づける。

○「ノーマディアや「生活リズムきらきらカード」の取り組みを通して、生活習慣について意識できるよう積極的に呼びかける。